

学位論文審査の結果の要旨

Summary of Doctoral Dissertation Examination

氏名/Name	Vianmana Sukontip
審査委員 Examining Committee	Chief Examiner 主 査 能 美 誠 (印)
	Assistant Examiner 副 査 安 延 久 美 (印)
	Assistant Examiner 副 査 保 永 展 利 (印)
	Assistant Examiner 副 査 井 上 憲 一 (印)
	Assistant Examiner 副 査 種 市 豊 (印)
題目 Title	A Study on Conditions for Continual Operations and Activities, Management, and Income Improvement of Silk Weaving Groups in Northeast Thailand (タイ東北部における絹織グループの運営・活動継続条件、経営管理および所得向上に関する研究)
審査結果の要旨 (2,000字以内) / Summary of Doctoral Dissertation Examination (Within 1200 words)	
<p>絹織は、タイのなかでも、その東北部において盛んで、農村地域の農業者や地域住民に対して補完的な所得や雇用を生み出す重要な活動であり、農村コミュニティのなかでビジネスグループとして組織される絹織グループ数は増加してきた。しかし、その大部分は高い成果を示すことができず、グループ活動が良好とはいえない状況が認められ、その活動を停止する絹織グループも存在している。そのため、タイでは、絹織グループの改善が重要な問題となっている。ただし、絹織グループの運営・活動継続条件、一層の所得向上に重要な要因は十分に明らかにされておらず、また、絹織グループの経営管理や運営で中心的な役割を果たす委員会組織についても十分な分析が行われてこなかった。そこで、本研究において、学位申請者は絹織グループの運営と活動の継続要因、絹織グループの委員会特性、および絹織グループのさらなる発展のための追加所得の創出に役立つ要因の研究を行った。具体的には、タイのなかでも絹織の盛んな東北部のコンケン県を対象として、2016年から2020年にかけて数回、絹織グループを訪問し、グループリーダーまたはグループの委員会構成員に対して調査票を用いた聞き取り調査を実施した。その調査結果に対して、記述的分析および多変量解析法等による分析を行い、以下の知見を明らかにすることができた。</p> <p>第1に、生産機能、マーケティング機能、財務機能に関連した諸要因が絹織グループの継続に役立つが、このうち、生産機能の観点からみると、グループの人気度、絹製品の価格・品質、ローン、資材、雇用、基金等の絹織職工を支援する諸方法が絹織グループの継続に役立つこと、マーケティング</p>	

機能の観点からみると、絹織職工に対する絹織グループによるさまざまな販売場所や方法の提供は、絹織グループの運営・活動の維持を促進するための安定的な収入獲得に役立つこと、さらに、財務機能の観点からみると、政府や NGO などの諸組織からの補助金獲得、グループ基金を集めるための方法、財務戦略（たとえば、絹織グループの絹織職工から現金での絹製品の購入、絹製品販売後のある程度の収益のグループ基金への組み入れ）は、グループ基金を潤して、再投資や再生産に貢献すること、等を明らかにした。

第2に、絹製品タイプ数、グループ年齢、いくつかのタイプの絹製品の生産の有無が、絹織グループの委員会特性の多様性の生起要因であることを明らかにした。ただし、各要因は部分的に委員会特性に影響を与えており、委員会特性のすべての側面に影響を与える要因は存在していない。なお、委員会特性の多様性とその多様性に影響を与える要因との間には、つぎの要素が介在していることを明らかにした。1) グループ構成員間での絹製品の品質格差の可能性、2) 絹製品の模様開発の必要性、3) 重要な情報が共有されるべきグループ構成員の必要人数、4) マーケティング活動の必要性（たとえば、注文に基づいた生産の程度、加工やファッション性の程度）、5) 特定機能を担当する委員会構成員の委員会構成員全体に占める割合が増加していく機能間でのトレードオフ関係、6) 委員会構成員の責任を明確にする必要性、7) 各絹製品タイプに求められる生産技能とマーケティング活動の特性と求められる水準。他方、委員会機能のどの組合せについても、対象とする2つの機能間の関係性の程度に相違がみられることから、当該両機能をとともに担当する委員会構成員の類似度は異なることが明らかになった。しかしながら、その機能間の類似度は、グループの基本的な特徴によって影響を受けていないことも明らかになった。

第3に、追加所得を生み出す要因は、50歳未満のグループ構成員割合、伝統技術の継承、グループが支援する販売活動が統計的にみて有意に追加所得の創出に貢献することが示された。絹織グループが若いグループ構成員割合の向上に努力することが重要であること、絹織技術のトレーニングは新しい絹織職工の補充にも役立つことから、若いグループ構成員割合の向上は、グループ構成員ではない若い人に対する絹織技術のトレーニングの促進によって行うことができること、また、伝統技術継承の活性化は、絹織グループの熟練構成員が、絹製品生産方法の習得を可能とするように、若い構成員を教育する機会を増やすことによって実践すべきであること、および、販売活動の活性化は、販売担当者（マーケティング機能を担当する委員会構成員）が販売および販売促進活動に責任を持っていることから、グループ内でマーケティング担当者の機能を改善することによって実行されるべきこと等を明らかにしている。

以上の研究は、絹織グループの運営・活動継続条件や、委員会特性、一層の所得向上に関して新たな重要な知見を提示したものであり、本審査会は本論文を博士学位論文として十分に価値があるものと判定した。